



活用した支援

- ・コーディネーター相談 等

課題

- ・資金調達
- ・千葉地域での販路拡大
- ・経営に関する全体的な支援

解決策

- ・専門家紹介
- ・コーディネーター伴走支援
- ・千葉県内企業の紹介
- ・各種申請サポート 等

得られた効果

- ・千葉市トライアル発注認定
- ・『ベンチャー・カップCHIBA』

AI・IoT受賞

- ・ICT活用等生産性向上支援事業採択

千葉市で“目立つ”戦略が追い風に。生成AIを活用した新規事業への挑戦

WellMent株式会社は、生成AIと映像技術を掛け合わせたプラットフォーム開発に取り組む、千葉市発のスタートアップです。映像広告の“自分ごと化”を実現するサー

ビスや、日本語動画を話者本人の声で、翻訳言語に合わせて自然な口の動きで多言語化する翻訳サービスなど、映像領域を中心に複数のプロダクトを展開しています。

支援のきっかけと決め手は？

創業前に「東京都で創業するか、千葉市で創業するか」で迷っていましたが、まず東京都のスタートアップの支援拠点に行ったところ、「千葉市はスタートアップ支援に力を入れているから、千葉のほうがいいのでは」と背中を押される形もあり、千葉市のスタートアップ支援の窓口で連絡を取り、千葉市産業振興財団（以下、財団と言う）をご紹介いただきました。

東京都はスタートアップが多く、支援が厚い一方で“埋もれてしまう”可能性もあります。その点、千葉市では行政や財団がスタートアップを積極的に支援してくれるのではと期待し、千葉市で起業することを決めました。結果的に、就業先企業に籍を置いたまま起業することを支援する、経済産業省の出向起業制度を利用して創業した千葉県初の企業となりました。

どのような取り組みを行いましたか？また、取り組みの進め方を教えてください。

コーディネーターとの面談で、初年度は「とにかく目立つ」という戦略を立てました。県や市が開催するビジネスコンテストに出たり、展示会に出展したりと、露出につながる動きを増やしました。スタートアップは、「新しいプラットフォームをつくるには投資が必要」という現実があり、出資してくれる企業

や人を探さないといけません。プロダクト開発は特にコストがかかるので、まずは我々を知ってもらうことが重要なのです。同時に、活用できそうな支援制度はできるだけ申請するようにしました。締切があるものを逃すと、次は1年後になってしまうこともある中で、「タイミングよく挑戦していく」動きができたことは、財団の

コーディネーターが制度情報や期限感を管理し、共有しながら伴走してくれたおかげだと思っています。



取り組みの成果を教えてください。

千葉市だから得られた“機会”と“加速”。開発の次の一手へ

“機会”と“加速”という部分で、千葉市で創業したからこそ得られた効果は大きいと感じています。結果として、受賞や露出が積み重なり、社名で検索すると私も把握していない新聞記事が出てくるという状態になりました。また、千葉市や財団に地域の大学や企業を紹介いただき、千葉大学との共同

研究にもつながりました。私たちのAIバーチャル体験サービスの価値は「本当に行動変容が起きるのか？」を問われがちなので、学術的に検証し、エビデンスを積み上げることが重要だと考えています。さらに、千葉市トライアル発注認定等を通じて、プロダクトを実際に使ってもらう機会が増えま

した。AI多言語翻訳サービスを無料トライアルで複数社に試してもらったところ、やり取りに時間がかかる等の運用上のボトルネックが明確になりました。そこから「ユーザーセルフで完結できるポータルが必要だ」という次の開発テーマにつながっています。

今後の事業展開や財団に期待すること

—今後の事業展開について
直近では、AI多言語翻訳サービスのユーザーセルフ型ポータルサイトを完成させ、売上を確保しながらプロダクトを磨くことです。同時に、AIアバタートークや、AIバーチャル体験広告の検証も進めます。中長期では、AIだけでは足りない部分を人のコーチングで補う形や、応援し合えるコミュニティの形成も視野に入れていきます。

—財団に期待すること
一番は、企業同士が協力し合える状況をつくる支援がもっと広がると良い、という点です。財団は“間を取り持つ”立場だからこそ、オープンイノベーションのプラットフォームになれる可能性があります。支援の成功事例が増えることで、それがスタンダードになっていく。そういう流れを一緒につかっていきたい気持ちがあります。



—ありがとうございました。